

瀬戸焼創作図案集について

1. はじめに

瀬戸地域は、窯業製品はもとより、関連設備機械、窯業原料など裾野の広い窯業産業群を形成しており、日本を代表する陶磁器産地です。しかしながら、世界的な景気減速、新興国による安価かつ大量な輸入製品との競争激化、国内需要の成熟化による消費者の買い控え等により、近年は厳しい状況が続いています。地元陶磁器業界では、品質の向上、高機能・高付加価値化を目指した製品開発を進めていますが、結果に結びついていない現状です。

窯業製品の開発では、機能や形状に並び、「図案」は重要な要素です。当センターでは、平成23年度緊急雇用創出事業基金事業を活用して、「瀬戸焼」のための「図案集」を制作しました。

2. 瀬戸窯業競技会

明治維新以降、政府は陶磁器を輸出の重要品目と位置づけ、新技術の導入などとともに、図案改良を推進してきました。なかでも瀬戸の陶磁器業界は、輸出振興や国内需要の拡大を目的として、図案競技会を開催するなど、積極的に図案を改良してきた実績があります。

そこで本事業では、「瀬戸焼」の伝統を継承しつつ、現在の生活に適応した図案を求め、明治34年(1901年)から大正8年(1919年)にわたり瀬戸陶磁工商同業組合が主催した「瀬戸窯業競技会」に出品された図案を参考に、新しい図案デザインを試みました。当時こうした競技会は、国内各地の陶磁器生産地で実施されています。しかし、当時の作品がまとまって残されていることは珍しく、この貴重な資産を生かすことは非常に意義があると考えます。

3. 図案集の概要

本事業で制作した図案集を「瀬戸焼創作図案集」と命名し、瀬戸窯業競技会の図案125点と共に創作図案526点を収録しました。創作図案は、磁器の和洋飲食器で使用されることを条件として、モチーフを「植物」「生き物」「自然」「抽象その他」の4カテゴリに大別してデザイン展開(図1)しました。

また製品は図2のとおり、「飯椀」「丸皿(大・中・小)」「楕円深皿」「杯」「ビアマグ・ジョッキ」「丼・麵鉢」「向付鉢」「ボウル(大・中・小)」「湯のみ」「マグカップ」で使用することを想定しました。

4. おわりに

この「瀬戸焼創作図案集」が、地元陶磁器業界で有効活用されることを期待します。お気軽に当センターまでお問い合わせください。

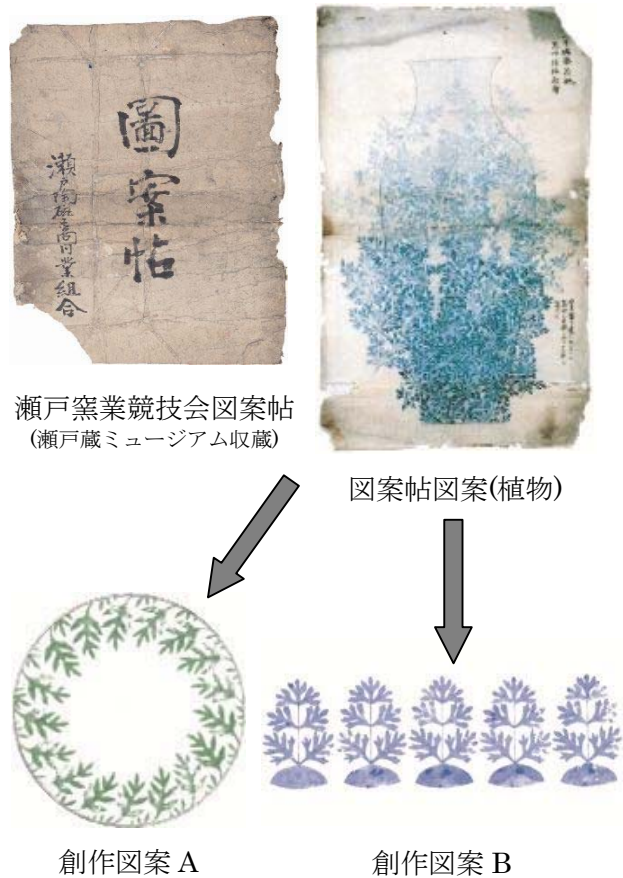


図1 創作図案への展開

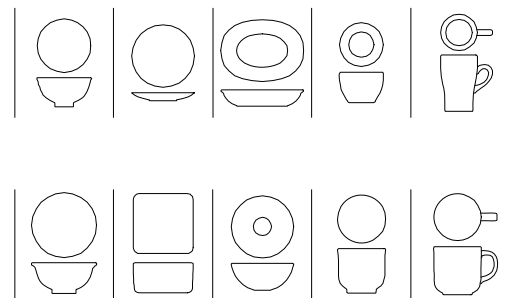


図2 和洋飲食器の製品形状



瀬戸窯業技術センター 製品開発室 寺井 剛 (0561-21-2117)
 研究テーマ： 圧力鋳込成型における泥將の流動に関する研究
 担当分野： 工業デザイン